

8 視察旅行のご案内

大会参加の皆様には、弊社・沖縄ツアーリスト(株)スポーツ&コンベンション(MICE)推進課主催による「視察旅行」を設定させていただきました。ご希望のお客様は別紙「申込用紙」にご記入の上、お申込みください。

《出発日：平成24年1月28日(土曜日)》

Aコース：琉球ロマネスク「テンペスト」の舞台・首里城と世界遺産巡り～琉球王国への誘い～
琉球ロマネスク「テンペスト」の舞台である首里城！地元ガイドが初めての方もリピーターの方でも、わかり易く歴史の裏話を織り交ぜながら琉球王国の歴史・文化をご案内致します。

料金(お一人様)	料金に含まれるもの
¥8,000	バス代・地元ガイド代・入館料・昼食代(飲料代は除く)・添乗員

日付	時間	日程	食事
平成24年1月28日 土曜日	8:30	沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザより専用バスにて出発	朝食 ×
	9:00	守礼門 ⇒世界遺産・園比屋武御獄石門(そんひゃんうたきいしもん) 歓会門 ⇒首里森御獄(すいむいうたき) ⇒ 奉神門 ⇒ 世界遺産 ・首里城 正殿 ⇒ 世界遺産・玉陵(たまうどうん)	
	11:30	専用バスにて昼食会場へ	
	12:00	ホテルにてランチバイキング	昼食 ○
	13:00	沖縄県民の台所・那覇市公設市場を地元ガイドと一緒に見学	
	15:00	那覇空港に向け出発	
	15:30	那覇空港出発口(3階) 到着後にホテルへ にへえーで一びる(有難うございます) また、うちなあー(沖縄)にめんそーれー(いらっしやいませ)	

*当日の交通状況によっては到着時間が多少変更となります。

《主な観光施設》

【首里城・玉陵】

中国をはじめとする諸外国との交易で発展を遂げた琉球の王の居城は、大陸風の様式が随所に採り入れられています。独特の湾曲の白い城壁に、鮮やかな朱色を基調とした首里城！そんな首里城の歴史の裏にはこんなことが・・・等、意外と知らない琉球王朝時代。玉陵はじめ世界遺産を巡りながら今までとは一味違った視点からその足跡や歴史をたどりながら神秘の世界を覗いて、首里城を究めてみませんか。




【那覇市公設市場】

人々の触れ合いが今もなお残るイチャリバチョーデー(出逢えば皆兄弟)な市場(まちぐわあ)は、400もある店にはチラガー(豚の顔)やイラブチャー(アオブダイ)などの食材が所狭しと並んでいます！色鮮やかな魚介類、塊のまま豪快に売られている豚肉、素朴な島野菜などの沖縄の食文化が一目で判るスポットです。一人では迷ってしまいそうなアーケード街を散策しながら、沖縄の食べ物や年中行事といった生活文化に触れて、アジアチックな混沌を感じてみませんか



Bコース: 日本一早い桜まつりと巨大アクリルパネルで沖縄の海を体感・沖縄美ら海水族館
約4,000本に及ぶ緋寒桜が咲き乱れ山全体がピンク色に彩られた八重岳桜まつりと、黒潮に育まれた
沖縄の海が再現された世界最大級の水族館をお楽しみください。

料金(お一人様)	料金に含まれるもの
¥7,000	バス代・ガイド代・入館料・昼食代(飲料代は除く)・添乗員

日付	時間	日程	食事
平成24年1月28日 土曜日	8:00	沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザより専用バスにて出発	朝食 ×
	10:00	沖縄高速道を利用し日本一早い八重岳桜まつりをたっぷり60分見学 	
	11:30	ホテル チサンリゾート沖縄美ら海にてランチをお楽しみください	昼食 ○
	12:30	ジンベエザメとマンタの雄大な姿が楽しめる沖縄美ら海水族館にて たっぷり120分見学	
	14:30	那覇空港へ出発	
	17:00	那覇空港出発口(3階) 到着後にホテルへ にへーでーびる(有難うございます) また、うちなあー(沖縄)にめんそーれー(いらっしやいませ)	

*当日の交通状況によっては到着時間が多少変更になります。

《主な観光施設》

【八重岳桜まつり】

日本一早い桜まつり!
毎年1月中旬から2月初旬にかけて八重岳のすそから山頂まで約4,000本の緋寒桜が鮮やかに彩りながら皆様をお迎えいたします。

*ご案内
桜の開花が遅れ見学が厳しい場合は、代案として「世界遺産・今帰仁(なきじん)城跡」となりますので予めご了承ください。



【沖縄美ら海水族館】

巨大アクリルパネルに見る水槽の中では、黒潮に育まれた沖縄の海が再現され雄大な命の営みが繰り広げられています。まるでコバルトブルーに潜り込んだ様な輝きや神秘、美しさを体感出来る世界最大級の水族館をお楽しみ下さい。

*リピーター方には・・・
何度か沖縄に来られ美ら海水族館の見学は・・・って方には、同時期に開催予定しています「沖縄美ら海花まつり」をお楽しみいただけます。約30万株の草花で園内をあざやかに装飾し、花でかたちどったジンベエザメやマンバクイナが皆様をお迎えいたします。

